

港湾・交通・観光対策特別委員会審査概要報告書

委員長 藪中 一夫

- I 開催年月日 令和 8 年 6 月 9 日（火）
II 会議時間 午前 10 時 00 分～午前 11 時 23 分
III 出席委員等〔出席委員〕◎藪中 一夫 ○山上 尊士 八田 一弥
植野 佳奈 塚本 政彦 林 貴文
田中 勝文 中川加津代 筏井 哲治
石須 大雄 水口 清志
（◎…委員長 ○…副委員長）
〔議長〕 曾田 康司
〔副議長〕 中村 清志
〔説明員〕 別紙名簿のとおり（山村総合交通課長が欠席）
〔委員外議員〕 水越 進一 山野井拓也
〔事務局職員〕 松本 武司 竹田 裕子 二口 崇
〔傍聴者〕 1 名

IV 審査の概要

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

（ 以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示 ）

- 山村総合交通課長が 4 月及び 5 月の総務文教常任委員会に続いて、今回で委員会を 3 回欠席している。どのような理由があるのか。
△ 本人の都合により今回も欠席している。本委員会での説明等については、所管部長として対応したい。
○ 5 月の総務文教常任委員会では、部長から支障がないようにという答弁があったが、去る 6 月 8 日に人事異動をしている。公共交通施策については、市長の肝いりと認識している。その重要なポストが不在となっていることについて受け止めは。
△ 人事異動により 1 名配置した。これまで同様、市民にやさしい公共交通の実現を目指し、一生懸命取り組んでいきたい。
○ 市政に穴が開かないようにしてほしい。（要望）

1 報告事項について

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

〔市長政策部〕

- 。令和8年度総合交通施策の主な取組について

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

【令和8年度総合交通施策の主な取組について】

- 交通の便が悪い地域については、地域主体でカバーしていくとのことだが、他の市町村ではスクールバスを日中の時間帯に活用するといった取組もあるが、本市での導入は考えられるのか。
- △ 改正地域公共交通活性化再生法が参議院を通過し、年内に施行されることとされており、スクールバスの活用や送迎サービス提供者に努力義務が課されるといった内容となっている。市としては、鉄軌道や路線バスを中心としながら、市民協働型地域交通システムにより、交通空白地をなくしていきたいと考えている。戸出地区の実証運行では、とやま生活協同組合から運転手や車両の面で事業協力の申し出があった。今回初めての取組になるが、こうした事例について、市民協働型地域交通システムの導入を検討している地区に紹介していきたい。スクールバスの活用について、具体の検討は行っていないが、今後、そうしたことも考えられると認識している。
- 公共交通お出かけ支援実証事業について、配布される割引券の内容は。また、65歳以上高齢者乗り放題パスの割引率引上げについて、現在の販売状況は。
- △ 1点目については、1枚200円の割引券を5枚綴りとして配布する。路線バス、タクシー、万葉線などの公共交通を利用する際、利用1回に対し、1人1枚使用できる。例えば、タクシーに3人乗車した場合は、3人がそれぞれ1枚使用すれば600円分となる。2点目については、1か月、3か月、6か月などの券種があるが、いずれの区分も倍以上に増えている。特に割引率引上げを開始した令和8年4月は前年同月比で数倍の枚数が購入されている。
- 市民にやさしい公共交通のあり方検討事業について、担当課長が不在であり、部長が補ったとしても現場の指揮命令系統に疑問がある。人事について機動的に対策をとる必要があるのではないかと。
- △ 先ほども話があったとおり、8年6月8日付けで職員を1名配置している。他の所管事業にも影響がないよう努めていく。
- 課長級の人事異動になっているのか。
- △ 配置したのは主幹であり、課長級である。
- 力強く進めたい事業だと思うので、課長の不在を補うことができるよう、しっかりと対策と体制を整えてほしい。（要望）
- 新幹線まちづくり推進高岡市民会議について、どのような会議体で、市としてど

のような支援を行っているのか。

- △ 県議会議員、市議会議員、商工会議所、市内の主な企業などで構成されており、おおむね 40～50 の団体が一堂に集まる会議である。北陸新幹線開業当時から、かがやき停車に向けた取組や、本市で活動する様々な団体の、新高岡駅利用促進に資する事業に対しての補助などを行っている。会議を開催することにより、情報の共有や、気運の醸成、各団体が方向性を一つにして取組をするといったことにつながっている。
- 高岡駅と新高岡駅間の道路の中央分離帯に灯籠が設置されている。先般開催されたまちかどトークでも住民から設置に不安の声があり、震災のときも倒れたことがある。当該道路では、次世代公共交通トライアルプロジェクトが行われるかもしれないが、そもそも道路の中央分離帯に障害物を設置することは道路交通法に違反していないのか。
- △ 構造等を踏まえた上で道路占用の許可を行っている。震災で倒れたものは再設置されていない。再設置する場合は、地震が起きても倒れにくい構造にするよう指導を行っており、それが確認できれば許可する。震災で倒れなかったものについても、引き続き倒れないよう占有者に求めている。
- 公共交通対策を検討する中で、安全に道路を活用できるようなハード面の対策も合わせて検討してほしい。(要望)
- 新高岡駅利用促進事業に関連して、先般、新高岡駅周辺の駐車場に関して新聞報道があった。大型ショッピングモールの駐車場を有料化し、新幹線利用者も駐車場を使用できるようにするというので、この取組に関連して市も何か取り組む考えはあるのか。
- △ 8月上旬から協力いただけることになっており、まずはその動向を注視したい。市としてもこれまで 50 台程度は増やしているが、駐車場が不足している実感はある。
- 路線バスの日中時間帯の AI オンデマンド実証について、事業の内容は。
- △ 定時定路線で運行している路線バスを、利用者からの乗車申し込みを受けて、柔軟にルートを変更して運行する形の実証を行う。人員不足の中でも効率的な運行が可能になるか、実証運行するものである。
- 乗車の連絡を受け取って、乗客をピックアップしていくということか。これは他市の事例を参考に行うのか。
- △ 具体的なエリアの設定はまだ決まっていないが、地域の意見を聞きながら、現状のバス停以外に、実証用のバス停を何か所か設定し、そこで乗車したいという申込を受けて、設定された停留所にて乗客をピックアップする。定時定路線とは異なり、予約がなかった場合は、そのバス停は飛ばして運行する。AI オンデマンドについては、全国各地で行われている。
- 具体的にどの部分に AI が活用されるのか。
- △ AI は運行管理の部分で活用される。利用者からの乗車申し込みに対し、運行状況から AI が最適ルートを選ぶというものである。

〔産業振興部〕

- (1) 令和 8 年度観光誘客施策の主な取組について
- (2) 令和 8 年度伏木港へのクルーズ船寄港に伴う取組について

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

【令和 8 年度観光誘客施策の主な取組について】

- 雨晴駅周辺・伏木地区おもてなしブラッシュアップ事業について、現在、雨晴ではオーバーツーリズムと言えるような状況になっている。観光客に来ていただけるのは大変ありがたい話だが、地域の方々からは早く解消するよう要望も出ている。このまま放置すると観光客の不満増にもつながることが懸念される。駐車場不足といった問題もあるが、受け入れ態勢の充実にあたって本市の考えは。
- △ ゴールデンウィークは天気が良く、立山連峰がよく見える日が続いたため、雨晴は大変混雑しており、渋滞も発生していた。また、雨晴駅の待合室も多数の利用者がいた。道路や駐車場といった物理的な問題は、今日明日すぐに解決できるものではない。抜本的な対策はなかなか難しいが、ブラッシュアップ事業の中でプラスになることができないか検討しながら、関係部局と連携し、少しでも改善を図ってきたい。なお、震災の影響で和倉温泉の稼働客室が少なくなっていることもあり、伏木地区の勝興寺や万葉歴史館などは雨晴のように観光客数が伸びていない。氷見線の利用なども含めて、観光客の流動について模索していくことが大事であると考えている。
- 氷見線を利用するのは非常によいことだと思う。雨晴駅の 2 駅前には伏木駅があり、市の観光駐車場も整備されている。当該駐車場が常に満車かというところでもない。雨晴という点に集中するのではなく、伏木駅、国分駅、市外になるが島尾駅などもある。こうした点を線でつなぐということも解決の糸口になると思うので、今後検討してほしい。（要望）
- 雨晴や伏木地区の抱える現状や課題をどこまで認識して、ブラッシュアップ事業を実施しようとしているのか。雨晴はオーバーツーリズムで住民の方々のトラブルも発生している。アンケートをとってどのように解消していくのか。本質を捉えておらず、噛み合っていないように感じる。また、伏木地区は復旧の最中であるが、観光客を誘導する、周遊ルートを造成するといった状況にあるのか。
- △ 復旧工事等がある中でどこまでできるのかということもあるが、勝興寺や雨晴など観光できる場所はある。復旧状況を踏まえながら、周遊ルートを考えていきたい。
- 雨晴、伏木地区それぞれの現実を踏まえた上で、戦略的な対策を練ってほしい。（要望）
- 伏木地区では震災の復旧が着実に進んでいる。この復旧の状況について、インバウンドや観光客の方に見ていただくといった考えもあるのではないかと。現在、復興ベースということで、東京科学大学や富山大学の学生、地域のボランティアの方々などが様々な取組をしているが、こういったところもあえて見てもらうというのはどうか。

- △ 市として想定している観光誘客施策は、復旧・復興を見ていただく観光というものではなく、従来の観光資源をしっかりと見ていただくことを基本としている。どういった観光ニーズがあるのか、把握に努めたい。
- 伏木地区には、喫茶店をはじめ様々な飲食店がある。各店舗は一生懸命頑張っているため、そうした方々の応援につながることを検討してほしい。（要望）
- 高岡古城公園磨き上げ事業について、どのような経済効果を生むと考えているのか。
- △ 4月に桜のライトアップやフォトコンテスト等を実施し、観光客の誘客を図るとともに、市民にも高岡古城公園の桜の美しさについて、気づきを持っていただけたと考えている。この気づきを SNS で国内外に発信していただき、さらなる誘客につながるなど、相乗効果が生まれたと考えている。経済効果については、具体的な数値は押さえていないが、高岡古城公園の魅力が向上することにより、加賀藩前田家に由来する瑞龍寺をはじめ、本市のまちなかに足を運んでいただき、観光消費が生まれる。こうした経済効果が生まれる取組を今後も進めていきたい。
- 高岡古城公園の磨き上げについては、市民の期待も大きく、満足度も高まっている。しかし、約 1,200 万円の予算をかけており、費用対効果、経済効果を生まないと投資する意味がない。観光消費という発言もあったが、お金を落とすところがまわらない。現実を捉えてどのような対策をとっていくのか、しっかりと検討してほしい。（要望）
- フォトコンテストのように、市民参加型で高岡の魅力を PR する取組は、市民の気づき、シビックプライドの向上といったことにつながるため、よいことだと思う。ほかに同じような市民参加型の取組はあるのか。
- △ 高岡古城公園の魅力をしっかりと伝えようとプロジェクトを立ち上げて取り組んでいる。先ほど経済効果という意見もあったが、まずは味方をつくるということが大事だと思う。イナガキヤスト氏の協力は今回始まったことではなく、たかおか観光戦略ネットワークでは以前から写真講座の講師などで協力していただいていた。自分の好きな地域を魅力的に発信するためのアドバイスをいただきながら、これまでも市民からの発信に力を入れていた。写真や SNS に限らず、ミラレ金屋町や高岡七夕まつりなど、市民が参加できる高岡の様々な地域資源を生かしていく。人口減少に伴い、観光誘客も厳しい現状にあるが、今の方々のニーズに合ったイベントを実施するなど、これからも市民が参加しやすい機会の創出に努めていきたい。
- 先日、市長が高岡の魅力を PR する動画が発信されたが、少し固く、内容も重かったように感じた。行政が PR するより、市民に写真や動画で PR してもらう機会を増やしてはどうか。例えば、夏休みの学校の宿題として、作文や工作以外にも、動画作成をしてコンテストを行うといった機会があれば、市民が高岡の魅力を探すことにつながると思うので、市民参加型の企画をしてほしい。（要望）
- △ 行政目線ではない情報発信については、地域おこし協力隊や高岡ナビライターにも情報発信をお願いしている。また、7 年度は子どもライター企画も行った。多くの市民に協力してもらえそうな環境をつくっていきたい。

【令和8年度伏木港へのクルーズ船寄港に伴う取組について】

- クルーズ船の受け入れにあたり、お出迎えや歓迎式典等を行っているが、SOLAS条約の規制により、市民がふ頭に入りづらい状況もあり、難しい側面もあると感じている。一方で、本市では、伏木港クルーズ客船歓迎クラブの募集を行っており、5年3月末時点で約3,000名の方が会員となっている。会員の方々に協力してもらう取組について考えは。
- △ クラブについては、伏木港にとって資産であると考えている。どのような形で生かせるのか、次の活動につながることも含めて考えていきたい。
- クラブのあり方を考え直す時期にきているのかもしれない。また、ふ頭のおもてなしだけが、おもてなしではないと思う。例えば、ふ頭以外の場所で、会員の協力によるおもてなし事業を行うなど、今後検討してほしい。（要望）
- 全国的にはコロナ前のピーク水準の約106%まで増加しているとのことだが、伏木港が金沢港にいつの間にか追い抜かれている。クルーズ船の受け入れには、県の力も相当必要になってくると思うが、伏木の復興につなげるという観点で取り組むのであれば、もっと充実したハード整備も必要だと思う。金沢港と伏木港の8年度の寄港数についてどのように捉えているのか。
- △ 金沢港の8年度の寄港予定は約65隻であり、平成29年度の55隻というピークを超えると聞いている。寄港した後の行動としては、基本的には兼六園や東茶屋街など、港から5km圏内の観光地に向かうとのことである。金沢市はコンパクトに観光地がまとまっており、知名度も高い。また、ターミナルも整備しており、受け入れしやすいという環境もある。伏木港については、物流港を兼ねた港であり、ターミナル化は難しいと考えている。一方で、伏木港から金沢市への観光は十分可能であり、現在もクルーズ船においてツアーバスが組まれている。こうしたことから、背後地観光の豊かさについては、伏木港は金沢港に負けていないと思う。県と連携し、ポートセールス活動をしていきたい。差はつけられているが、1つ1つ着実に進めていきたい。
- 遡れば伏木港は金沢港に先行していた。以前の寄港数は同じ1桁台だったが、水をあけられた。桁数が異なるため、追いつけ、追い越せというのは非常に厳しいと思うが、状況をもう一度整理したうえで、対策や戦略を練ってほしい。（要望）
- 伏木港は物流港との兼ね合いもあるため、岸壁の利用率等も踏まえて誘致活動を考えていかなければならない。伏木港の強みは水深であり、最大12m程度あることから、数というより、どのような船を伏木港に誘致できるかという視点も踏まえて取り組んでほしい。C工区の整備が形として見えてきたときには、これまで以上に多くの船が入ってくるころができるようになると思うので、そうした未来を見据えた誘致活動を行ってほしい。（要望）

〔都市創造部〕

- 。伏木港の整備状況について

〈 委員から、質疑等はなかった。 〉

2 その他

〈 委員から、質疑等はなかった。 〉

〈 当局からの報告はなかった。 〉

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

港湾・交通・観光対策特別委員会 当局説明員名簿（12名）

副市長	竹内 延和		
市長政策部長	日名田 尚明	都市創造部長	山森 久史
市長政策部政策監	寺井 知恵	都市創造部次長	渡辺 昌樹
総合交通課長	山村 紘次	都市創造部次長 都市計画課長	中出 裕嗣
		土木維持課長	中澤 俊一
産業振興部長	長久 洋樹		
産業振興部次長	須田 稔彦		
観光交流課長	野村 岳人		
みなと振興課長	水上 暁		